

# 字音接頭辞「全」と「総」について

張 明

[キーワード：①字音接頭辞 ②「全」 ③「総」 ④意味 ⑤比較分析]

## 1. はじめに

本稿の字音接辞は、山下（2018）、張（2018）にしたがって、「新チーム・脱原発・未発表・感情的・映画化・勉強家」の「新・脱・未・的・化・家」のように、主に二字以上の漢語や和語、外来語に前接または後接して合成語を形成する字音形態素のことを指す<sup>1)</sup>。「新・脱・未」のように、二字以上の漢語や和語、外来語に前接して合成語を形成するものは字音接頭辞、「的・化・家」のように、後接して合成語を形成するものは字音接尾辞であるとされている。「全」は「全世界」「全組合」「全レース」、「総」は「総選挙」「総崩れ」「総カロリー」のように、二字以上の漢語や和語、外来語に前接して合成語を形成するため、本稿の考察対象である「全」「総」は字音接頭辞と認められる。

国語辞典における「全」と「総」の意味記述を見ると、類似した記述が見られ、類義関係にあることがわかる。

(1) 全：《接頭》「すべての」「すべてで」などの意

総：《接頭》（体言について）「すべての」「全部の」などの意

（『学研現代新国語辞典 改訂第六版』学研教育出版. 2017）

しかし、両者は語釈が酷似するほどの類義関係にあるが、母語話者はおろか、学習者でさえも「総選挙」を「全選挙」に、「全否定」を「総否定」というように、混同することがまれである。それは、「全」と「総」の間に、はっきりとした違いがあるからではないかと考えられるが、まだ不明な点が多い。よって、本稿は、「全」と「総」の意味用法を検討したうえで、両者の類似点と相違点を明らかにすることを目的とする。

## 2. 考察資料と用例

本稿は、コーパスとして、国立国語研究所で制作された『現代日本語書き言葉均衡コー

パス』(以下BCCWJ)を使用し、用例を収集した。中納言を使用し、2017年10月18日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定した。「全」については、「書字形出現形が全 AND 語彙素読みがゼン」という指示で検索し、11274件の検索結果を得た。「総」については、「書字形出現形が総 AND 語彙素読みがソウ」という指示で検索し、7945件の検索結果を得た。

目視で用例を確認し、(2)のように、直後に数量表現が来る場合<sup>2)</sup>や、(3)のような略語である場合は、字音接頭辞とは認められないため、考察対象から除外する。また(4)のような一字漢語と結合し、二字漢語を形成するものを考察対象から除外する。

- (2) 十五年位前に「草の根出版会」ってところで、愛蔵版として全3巻で出ていました。(BCCWJ. Yahoo!知恵袋. 2005)
- (3) ところが、そのころからはじまった北大での全共闘運動の逮捕者にたいして、……。 (BCCWJ『この国の奥深く』1986)
- (4) 慶長五年の関ヶ原の合戦のさい、毛利輝元は西軍の総師となり、東軍の徳川家康と敵対した。(BCCWJ『軍師と家老』1999)

最終的に考察対象となる用例は、「全」については、異なり1833例、延べ8226例であり、「総」については、異なり871例、延べ7720例であった。延べ語数で見ると、「全」と「総」はさほど差がないが、異なり語数で見ると、「総」は、「全」と比べて、約1000語少ない。「総」は比較的限られた後接語と結合し、繰り返し使用される傾向があり、生産性という観点では、「全」と比べて、「総」は低い。

### 3. 「全」の意味用法

#### 3.1 林(2010)による分類

「全」の意味用法について詳しく言及したものには、林(2010)がある。林(2010)は、「全」の意味用法を、「全ての～」という意、「～全体」という意、「全ての～」と「～全体」という両義、副詞的な用法という4つに分類している。用例を挙げながら、詳しく見ていく。

まず、「全ての～」という意を表す「全」は、次の(5)～(7)がある。

- (5) 負担の多い遊撃手で全イニング出場中 (林2010:102)
- (6) 発泡酒の国産全ブランドを100%天然水仕込みにする (同上)
- (7) それには英語に限らず、全教科について、批判的な視点で読書していくや… (同上)

(5)～(7)における「全」は、「全ての～」という意を表し、「全」が後接語を連体修飾する関係にある（林 2010：102）としている。

次に、「～全体」という意を表す「全」は、次の(8)～(10)がある。

- (8) 民主化の動きは、全アジアの潮流だ。 (林 2010：103)
- (9) 教科書会社には全ページ数の1割程度まで、… (同上)
- (10) 一個の人間の全生涯をかけて、呼応しあっているかとも思う。 (同上)

(8)～(10)における「全」は、「～全体」という意を表し、「全～」全体が後接語の全ての範囲に及ぶ、一まとまりとしての総体をさす（林 2010：103）と指摘している。

さらに、「全」が両義性を持つ場合もある。

- (11) 全住民が自由に往来できるようになって欲しい。 (林 2010：105)
- (12) 全住民の92%に当たる86人の行動を確認した。 (同上)

(11)の「全住民」は、「全ての住民」という意味で、「全」は「全ての～」という意を表す。一方、(12)の「全住民」は、「住民全体」という意味で、「全」は「～全体」という意を表す。林（2010）によると、「全住民」の「全」の意味は文脈によって「全ての～」にも「～全体」にもなる。

最後に、副詞的な用法の「全」もある。副詞的な用法の「全」をさらに2つに分ける。第一に、「全納」「全訳」「全廃」「全開」<sup>3)</sup>の「全」は、「全て、全部」という意を表し、後接する動詞的な成分に対して、「全て、全部」という量的な側面から連用修飾している（林 2010：106）と述べている。第二に、「全壊」「全癒」「全備」「全否定」の「全」は、「すっかり、完全に」という意を表し、質的な側面から「全」の後の要素を限定して連用修飾している（林 2010：106）と述べている。

以上が林（2010）における「全」の意味用法の4分類であった。まとめると、表1のようになる。

表1 林（2010）による「全」の意味用法のまとめ

「全ての～」という意	全ジャンル、全エネルギー、全機種、全球団など	
「～全体」という意	全シリーズ、全イースタン、全世界、全関西など	
「全ての～」と「～全体」という両義	全コース、全ページ、全自治体、全財産など	
副詞的な用法	「全て、全部」	全納、全訳、全廃、全開、全勝、全減など
	「すっかり、完全に」	全壊、全癒、全備、全否定など

### 3.2 林（2010）の問題点

林（2010）の最も大きい問題は、両義性というところにある。林（2010）は、後接語によって、「全」の意味用法を分類している。林（2010）は「全ブランド」の「全」を「全ての～」という意味用法に分類している。しかし、「全ブランド」は文脈によって、「全」の意味も変わる。

- (13) 発泡酒の国産全ブランドを100%天然水仕込みにする。 (= (6)の再掲)  
(14) 発泡酒の国産全ブランドの10%が赤字経営 (作例)

(13)は、林（2010）の「全ての～」という意を表す「全」の用例である。しかし、(14)のように、「数量・比率」を表す文脈を与えれば、「～全体」という意味になってしまう。それについて、林（2010）でははっきり指摘されていない。「全ての～」と「～全体」という両義は、後接語によって決められるのではなく、文脈によって決められる。つまり、表1で「全ての～」という意に分類されている「全ジャンル」「全エネルギー」「全機種」「全球団」などは、「数量・比率」を表す文脈を与えれば、「～全体」という意味になる。よって、本稿は「全ての～」と「～全体」という両義を認めない。

また、林（2010）のもう1つの問題は、BCCWJから収集した用例の中に、「全ガラス張り」「全金属製」「全都市化」などのように、林（2010）の4分類のどれも当てはまらないものが存在する。本稿は、それらの用例を考慮に入れ、「全」は「全てが～」という意を表す場合もあると主張し、詳しくは3.3で検討する。

### 3.3 本稿における分類

林（2010）の分類を参考にしつつ、その問題点を克服するために、「全」の意味用法を大きく「全ての～」「～全体」「全てが～」「副詞的な用法」の4つに分類する。

「全ての～」と「副詞的な用法」は林（2010）と同じである。副詞的な用法は、林（2010）にしたがって、さらに量的側面からの連用修飾と質的側面からの連用修飾という2つに分類する。

「全てが～」という意を表す「全」は、林（2010）にない分類であり、次の(15)～(17)を取り上げる。

- (15) 全ガラス張りで高さ十一階の景色とおいしい料理と一緒に楽しめる。  
(BCCWJ『デート限定ぴあ 東海版』2001)  
(16) フロートは全金属製で安定性、操縦性、凌波性ともに単発の水偵としては抜群の機体構造を持っていた。  
(BCCWJ, Yahoo! ブログ, 2008)  
(17) こうしてついに全電子式テレビが実現したのである。

(BCCWJ『科学の世紀を開いた人々』1999)

(15)の「全ガラス張り」は、「全てがガラス張り」という意味を表す。(16)(17)の「全金属製」「全電子式」も同様に、「全てが金属製」「全てが電子式」という意味を表す。このように、(15)～(17)の「全」は、「全てが」という意味を表し、林(2010)では指摘されていない。

「～全体」は林(2010)にある分類であるが、本稿では、さらに2つに分ける。1つは、後接語が「(空間的・時間的)範囲」を表すものであり、「全日本」「全関西」「全ヨーロッパ」「全期間」「全生涯」などの用例が挙げられる。もう1つは、「全ページ数」「全苦情件数」「全森林面積」「全輸出額」などのように、後接語が「数量・比率」を表すもの、あるいは、「数量・比率」を表す文脈(例12)である。

本稿における「全」の意味用法をまとめると、次の表2のようになる。

表2 本稿における「全」の意味用法のまとめ

(1)「全ての～」という意	
(2)「～全体」という意	a. 後接語が「(空間的・時間的)範囲」を表すもの
	b. 後接語が「数量・比率」を表すもの、あるいは、「数量・比率」を表す文脈
(3)「全てが～」という意	
(4) 副詞的な用法	a. 「全て、全部」(量的側面からの連用修飾)
	b. 「すっかり、完全に」(質的側面からの連用修飾)

#### 4. 「総」の意味用法

「総」の意味用法を詳しく検討し、分類するものは、管見の限り見当たらない。3.3の「全」の意味用法を参考にして、本稿は、「総」の意味用法を「～全体」「全て～」「全てが～」「全ておさめる、とりしめる」「副詞的な用法」の5つに分類する。

まず、「～全体」という意は「全」にもあるが、「総」は、「総カロリー」「総被害者数」「総出荷量」などのように、後接語が「数量・比率」を表すもの、あるいは、(19)のように、「数量・比率」を表す文脈のみである。「全日本」「全ヨーロッパ」などの後接語が「(空間的・時間的)範囲」を表す場合は、「総」にはない。

- (18) このような状況のもと、電線メーカー全体で輸出を含めた総出荷量の1.5から7倍程度に当たる十分な供給余力が認められる。

(BCCWJ『公正取引委員会年次報告：独占禁止白書 平成17年版』2005)

- (19) 憲法九十六条では、憲法改正の手続きとしては衆参両院がそれぞれ総議員の3分の2以上の賛成で発議し、国民投票で過半数の賛成を得ることを定めています。(BCCWJ『現代用語の基礎知識学習版』2000)

(18)の「総」の後接語である「出荷量」自体が「数量・比率」を表している。(19)の「総」の後接語である「議員」自体は、「数量・比率」を表していないが、文脈全体は「数量・比率」を表している。(18)は「出荷量全体の1.5から7倍」、(19)は「議員全体の3分の2以上」という意味を表し、「総」は「～全体」という意を表す。

次に、「全ての～」という意と「全てが～」という意は、「総」にもあり、「全」とほぼ一致する。次の(20)(21)は「全ての～」という意を表す「総」の用例で、(22)(23)は、「全てが～」という意を表す「総」の用例である。また、「一億総中流」という用例を多く抽出したため、「全てが～」という意を表す「総」は「全」より多い。さらに、「一億総中流」に類する造語「一億総オタク」「一億総アレルギー」などの用例も多く見られる。

- (20) 左に掲げた原因より生じたる債権を有する者は、債務者の総財産の上に先取特権を有す。(BCCWJ『C-book 民法』2001)
- (21) しかし、すべての株主が招集を請求できるわけではなく、6か月前から引き続いて総株主の議決権の百分の3以上を有する株主（複数株主が合算してもよい）に限られています。(BCCWJ『すぐに役立つ会社経営の法律しくみと手続き』2003)
- (22) 木の香漂う総ひのき造りの大浴場は、光が満ちあふれ、開放感満点。(BCCWJ『部屋まで選ぼう癒しの温泉宿百選』2000)
- (23) 企業の総コンビニ化ですね。(BCCWJ『火事場の経済学』2003)

さらに、「全ておさめる、とりしまる」という意を表す「総」は、「総支配人」「総司令官」「総書記」「総政治部」などのように、後接語が「官職・組織」である特徴がある。「全ておさめる、とりしまる」という意は、「全」にはない。

最後に、「総選挙」「総動員」「総辞職」「総攻撃」「総点検」などのように、「全」と同様に、副詞的な用法と見られる「総」がある。「選挙する」「動員する」などのように、副詞的な用法と見られる「総」の後接語は動詞的な成分である。

## 5. 「全」と「総」の基本的意味

前節では、「全」と「総」の意味用法を考察した。「全」の意味用法は大きく「全ての～」「～全体」「全てが～」「副詞的な用法」の4つに分けられる。「総」の意味用法は「～全体」「全ての～」「全てが～」「全ておさめる、とりしまる」「副詞的な用法」の5つに

分けられる。本節では、「全」と「総」の基本的意味を「全て」とし、後接語に応じて、「全ての～」「全てが～」などといった意を表すことになる」と主張する。

まず「全」について検討する。後接語が「アジア」「生涯」のように、「(空間的・時間的) 範囲」を表すもの、あるいは、後接語が「ページ数」「苦情件数」のように、「数量・比率」を表すものである場合、「～の全て」「～全体」という意味を表すことになる。次に、後接語が「抽出」「否定」のような動詞的な成分である場合、「全」が副詞的な用法になる。さらに、後接語が「ガラス張り」(例 15)「金属製」(例 16)のように、動詞的要素が入っている場合、あるいは「電子式」(例 17)のように、「形容詞のような特徴を発揮する」<sup>4)</sup>(村木 2012: 130) ものである場合、「全てが～」という意を表すことになる。最後に、後接語がそれ以外の場合は、「全」が「全ての～」という意を表す。以上のことをまとめると、次の表 3 のようになる。

表 3 「全」の後接語と意味用法の関係

	後接語	用例	意味用法
「全」 基本的意味： 「全て」	「(空間的・時間的) 範囲」を表すもの	「アジア」「生涯」	「～全て」
	「数量・比率」を表すもの	「ページ数」「苦情件数」	「～全体」
	動詞的な成分	「抽出」「否定」	「全て」「完全に」
	動詞的要素が入っている 形容詞のような特徴を発揮する	「ガラス張り」「金属製」 「電子式」	「全てが～」
	それ以外	「機種」「ジャンル」	「全ての～」

次に「総」について検討する。後接語が「カロリー」「出荷量」のように、「数量・比率」を表すものである場合、「総」は「～の全て」「～全体」という意味を表すことになる。後接語が「選挙」「動員」のような動詞的な成分である場合、「総」が副詞的な用法になる。さらに、後接語が「ひのき造り」(例 22)「コンビニ化」(例 23)のように、動詞的要素が入っている場合、あるいは「中流」のように、「形容詞のような特徴を発揮する」(村木 2012: 130) ものである場合、「全てが～」という意を表すことになる。後接語が「官職・組織」である場合、「全ておさめる、とりしまる」という意を表すことになる。最後に、後接語がそれ以外の場合は、「総」が「全ての～」という意を表す。以上のことをまとめると、次の表 4 のようになる。

表4 「総」の後接語と意味用法の関係

	後接語	用例	意味用法
「総」 基本的意味： 「全て」	「数量・比率」を表すもの	「カロリー」「出荷量」	「～全て」「～全体」
	動詞的な成分	「選挙」「動員」	「全て」「全部」
	動詞的要素が入っている 形容詞のような特徴を発揮する	「コンビニ化」 「中流」	「全てが～」
	「官職・組織」を表すもの	「司令官」「政治部」	「全ておさめる」
	それ以外	「社員」「株主」	「全ての～」

## 6. 「全」と「総」の比較

### 6.1 曹（2018）について

「全」と「総」の比較分析に関する先行研究に、曹（2018）がある。

まず、結合機能（どのような後接語と結合するのか）についてまとめると、「全」は表5、「総」は表6のようになる。

表5 曹（2018）による「全」の結合機能<sup>5)</sup>

名詞性	地域	全選挙区、全日本、全地球、全自治体など
	組織	全農園、全中学校、全チーム、全球団など
	メンバー	全住民、全委員、全国民、全登録者など
	身体	全神経
	作品	全作品、全書類
	すでに限られている範囲か量	全過程、全会計、全音符、全回答、全株式など
	事柄の詳細	
動詞性	動作作用のすべて	全否定、全半焼、全半壊
形容詞性	程度性	
数量関係	全+助数詞	全ページ
	全+数詞+助数詞	全12回、全17巻
	全+数詞+名詞	全47都道府県
	全+x+「数」	全住宅数



表6 曹 (2018) による「総」の結合機能

名詞性	各部分の量を合計した量		総資産、総金額、総面積、総距離、総労働時間など
	各部分をまとめる		総立ち、総当たり、総ぐるみ、総入れ歯など
	上位概念	総括職、管理職	総領事、総料理長、総支配人、総参謀長
		上位にある部門	総連合会、総領事館、総代理店、総司令部
その他		総まとめ、総仕上げ	
動詞性	サ変動詞 名詞	各部分の量を合計する	総決起、総辞職、総動員 <sup>/6)</sup> 総選挙、総延長、総生産
		各部分をまとめる	総攻撃、総行動、総点検 <sup>/</sup>
		上位概念	<sup>/</sup> 総監督
数量関係	「総」+ x + 数		総来場者数、総発行数、総世帯数、総台数など
	「総」+ x + 費		総事業費、総工費、総建設費
	「総」+ x + 額		総債権額、総支払額
	「総」+ x + 量		総貯水量、総発電量

次に、「全」と「総」の意味添加機能（どのような意味を表すのか）について、「全局・総局」「全会・総会」「全額・総額」「全量・総量」「全体・総体」「全力・総力」といった用例を用いて、「全一」はすでに決められた範囲のいっぱい、その範囲の割合を強調するか、その範囲にある100%を指す。それに対して、「総一」は各部分を統轄して、まとめること、足し算を表すと指摘している。

曹 (2018) の問題点は3つある。

第一に、結合機能の分類は、わかりにくい点があり、また恣意的であり、客観的な分類基準が欠けている。例えば、表6に、「各部分をまとめる」「上位概念」などの用語はわかりにくい。また、「総監督」と「総料理長」を違う分類にしているが、「総監督」と「総料理長」の「総」はさほど違いを感じない。「総まとめ」と「総当たり」も同様である。

第二に、意味添加機能の分析に用いられる語例はすべて二字漢語である。例えば、「全体・総体」の「全体」の意味は、「全」の意味プラス「体」の意味になるのだろうか。「総体」の意味は、「総」の意味プラス「体」の意味になるのだろうか。「全」「総」の意味を考察するには、このような二字漢語の用例だけでよいのか。「全」「総」の意味を考察するには、「全財産」「総出荷量」などの三字以上の漢語や、外来語、和語と結合する用例を用いるべきである。

第三に、結合機能の分析と意味添加機能の分析が有意義につながっていない。表5と表6の結合機能の分類と、「全」「総」の意味の分析には関連性が見えない。

## 6.2 本稿における分析

3.3では、「全」の意味用法を大きく「全ての～」「～全体」「全てが～」「副詞的な用法」の4つに分類した。4.では、「総」の意味用法を「～全体」「全ての～」「全てが～」「全ておさめる、とりしめる」「副詞的な用法」の5つに分類した。対比して見てみると、次の表7のようになる。

表7 「全」と「総」の比較

		「全」	「総」
ア.	「全ての～」	3999 ( 48.61%)	239 ( 3.10%)
イ.	「～全体」	「範囲」を表すタイプ	2410 ( 29.30%)
ウ.		「数量・比率」を表すタイプ	4014 ( 51.99%)
エ.	「全てが～」	30 ( 0.36%)	192 ( 2.49%)
オ.	「全ておさめる、とりしめる」	0 ( 0.00%)	1773 ( 22.97%)
カ.	副詞的な用法	344 ( 4.18%)	1502 ( 19.46%)
	合計	8226 (100.00%)	7720 (100.00%)

表7を見ると、「全日本」「全ヨーロッパ」「全期間」など、イ.「～全体」という意で、「範囲」を表すタイプは、「全」には2410例あるが、「総」にはない。また、「総支配人」「総書記」「総政治部」など、オ.「全ておさめる、とりしめる」という意は、「総」には1773例あるが、「全」にはない。「イ.」と「オ.」の用法に関しては、はっきりとした差が見られる。

しかし、ほかの用法を見てみると、「全」も「総」も一定数の用例が確認される。それぞれの違いを後接語という観点から見ていく。

### (ア.) 「全ての～」という意を表す「全」と「総」

次の(24)(25)と(26)(27)からわかるように、「全」も「総」も「全ての～」という意味を表す。

- (24) このマニュアルを遵守し励行することが当社の全社員の責務であること  
(BCCWJ『会社書式の作成全集』1996)
- (25) 一般信書便事業者たる法人の解散の決議又は総社員の同意は、総務大臣の認可を受けなければ、その効力を生じない。  
(BCCWJ『民間事業者による信書の送達に関する法律』2002)
- (26) そこで、全株主に代わって経営を担当する機関が必要となります。  
(BCCWJ『株主会社の知識』2003)

- (27) 当該承認を受けようとする者の保有する当該承認に係る少額短期保険業者の議決権の数を、当該少額短期保険業者の総株主の議決権で除して得た割合をいう。  
(BCCWJ『保険業法』1995)

(24)の「全」も(25)の「総」も「全ての～」という意を表すが、互いに言い換えられない。

まず、用例数を見てみると、「全ての～」という意を表す「全」は3999例あり、「全」用例の約半分を占めている。「全ての～」という意を表す「総」は239例あり、「総」用例のわずか3.1%を占めているにすぎない。「全ての～」という意を表す際には、「総」より「全」のほうが用いられやすいことがわかる。

次に、後接語を見てみると、(25)(27)のように、「全ての～」を表す「総」は業界専門用語として使われる傾向が見られる。「全ての～」という意を表す「全」と「総」の後接語を挙げると、次の表8のようになる。表8からも、そのような傾向がうかがえる。しかし、なぜ「全ての～」を表す「総」は業界専門用語として使われる傾向があるのか、その理由についてまだ解明できておらず、今後の課題としたい。

表8 「全ての～」という意を「全」と「総」の後接語<sup>7)</sup>

「全」のみに付く	国民(138)、産業(109)、責任(78)、世帯(72)、作品(56)、職員(54)、都道府県(52)、日程(46)、方位(41)、人格(39)、精力(37)、神経(37)、従業員(33)、学年(33)、種類(33)、分野(29)、方向、業種(28)、年齢、市町村、天候(26)、生徒、存在(25)、閣僚、機種、加盟国、商品(22)、店舗、区間(21)、工程、教科、市民(20)、以下略
「総」のみに付く	勘定(13)、人員、定員(10)、従業者(6)、債務(5)、損失(4)、蛋白(3)、与信、脂質、議決権(2)、構成点、回転、農家ベース、普通出資者、新規採用者、優先出資者、戦果、得票、投資、在庫、キャッシュフロー、蓄積、正常ヘモグロビン、ショットカウンター、インターネットアクセスポイント、募集人員(1)
両方に付く	「全」が多い：財産(117:14)、社員(82:11)、試合(58:1)、エネルギー(31:2)、過程(31:4)、行程(17:2)、事業(14:1)、兵力(13:3)、議員(12:1)、農家(9:3)、組合員(6:2)、債権者(5:4)、戦績(3:1)、農業集落(2:1)
	「総」が多い：株主(8:80)、水銀(1:14)、労働(1:10)、価値(1:5)、死亡(1:2)、債権(1:2)
	「全」と「総」が同じ：水田、生産物、退職者(1)

(ウ.)「～全体」という意で、「数量・比率」を表すタイプの「全」と「総」

次の(28)(29)と(30)(31)からわかるように、「全」も「総」も「～全体」という意味を表し、かつ「数量・比率」を表すタイプである。

- (28) 当時の関東全世帯数は約三百八十万だから、……。  
(BCCWJ『最新放送メディア入門』1998)
- (29) 加入世帯数を総世帯数で割った「組織率」は全国で六十二. 五％  
(BCCWJ『情報通信白書 平成16年版』2002)
- (30) 3月期では不動産部門の売上高が全売上高の5割を超えているが、……。  
(BCCWJ『資金と支払能力の分析』2002)
- (31) 総売上高ではローソンが五位、ファミリーマートが七位。  
(BCCWJ『流通経済の手引き 2004年版』2003)

(28)の「全世帯数」と(29)の「総世帯数」、(30)の「全売上高」と(31)の「総売上高」の間に、意味の差はほとんど見られず、互いに置き換えられる。

まず、用例数を見てみると、「総」は4014例あり、「総」の全用例の約半分を占めている。「全」は1443例あり、「全」用例の約17%を占めている。「～全体」という意で、「数量・比率」を表すタイプである場合には、「全」より「総」のほうが用いられやすいことがわかる。

次に、後接語を見てみる。後接語をまとめると、次の表9のようになる。「世帯数」「売上高」のように、後接語自体が「数量・比率」を表す場合、「総」の用例数は3779例で、「全」はわずか765例である。「総」は「数量・比率」を表す後接語と結合しやすく、「全」は「死亡者」「従業員」のように、「数量・比率」を表さない後接語と結合しやすいという傾向が見られる。

表9 「～全体」という意で「数量・比率」を表すタイプの「全」と「総」の後接語

「全」のみに付く	産業 (72)、体重 (28)、年齢 (18)、理事数 (16)、肺気量 (15)、負傷者数、住宅 (14)、苦情、死亡者 (12)、労働者 (10)、法人、火災、学校 (9)、常勤理事数、法人数、市町村 (8)、地方公共団体、業種 (7)、公害苦情件数、労働日、事業所、団体、刑法犯、指導内容別件数、卒業者 (6)、被疑者、従業員、電荷量、交通事故死者数、旅行、騒音苦情、森林面積、送致人員、消費支出、用途、指数 (5)、以下略
「総」のみに付く	事業費 (93)、所得金額 (70)、利益 (50)、トン数 (48)、工費 (38)、報酬 (33)、実労働時間 (32)、トン、排気量 (30)、通話回数 (29)、固定資本 (23)、人件費 (22)、コレステロール値 (21)、席数 (19)、支給額 (18)、カロリー、工事費 (17)、利潤 (16)、加増 (14)、経費、支払額 (13)、輸出入、支出額 (12)、コレステロール、契約数、通過時間 (11)、回転数、金額、日数 (10)、以下略
両方に付く	「全」が多い：世帯 (31:5)、死者数 (30:1)、行程 (15:1)、検挙人員 (13:6)、農家 (13:2)、財産 (12:2)、苦情件数 (11:3)、議席 (7:2)、雇用者 (6:3)、個体数 (5:2)、エネルギー (3:1)、就業人口 (3:1)、エネルギー消費 (2:1)、加入者 (2:1)、企業数 (2:1)、使用量 (2:1)、収穫量 (2:1)

<p>「総」が多い：生産（1：309）、人口（111：212）、資本（2：173）、需要（4：165）、資産（10：146）、重量（14：125）、面積（15：101）、支出（1：88）、延長（2：79）、供給（1：77）、生産額（1：70）、輸入（2：66）、輸出（4：55）、費用（7：51）、収入（8：47）、所得（2：46）、排出量（2：35）、生産量（7：35）、予算（2：32）、戸数（9：29）、輸出額（5：25）、回線数（3：24）、件数（6：24）、労働時間（2：22）、売上（4：20）、投資額（1：20）、売上高（4：19）、ページ数（1：18）、貸付残高（2：16）、雨量（1：16）、兵力（4：15）、コスト（1：14）、世帯数（8：13）、輸入額（2：13）、人員（1：10）、走行距離（3：10）、出荷量（1：8）、出火件数（1：8）、発行部数（1：8）、輸送量（1：8）、飼養頭数（1：8）、議員（1：8）、発電電力量（1：7）、販売額（2：7）、労働力人口（1：7）、エネルギー量（2：6）、得点（4：6）、発電量（1：6）、合計（1：6）、需要量（2：6）、資金（3：6）、従業者数（1：5）、地積（1：5）、発電設備容量（1：5）、容量（3：5）、時間（1：5）、職員数（4：5）、質量（1：5）、産出量（1：4）、広告費（1：4）、就業者数（2：4）、摂取カロリー（1：4）、輸入量（2：4）、輸入数量（1：4）、発生件数（1：3）、飛行時間（1：3）、検挙件数（1：3）、労働人口（1：3）、価格（1：3）、投資（1：3）、降水量（1：2）、貿設置数（1：2）、摂取量（1：2）、輸出入額（1：2）、体積（1：2）、製作本数（1：2）</p>
<p>「全」と「総」が同じ：死亡（4）、出荷額、耕地面積、貿易量、研究費（2）、アイテム数、保有台数、残高、産卵数、発生量、給水量、計画、利用者、流通量、旅客輸送量、生活時間、施設数、授業時間、税収、消費量、戦力（1）</p>

### （カ.）副詞的な用法の「全」と「総」

最後に、副詞的な用法の「全」と「総」について少し考える。3.1で述べたように、林（2010）は、副詞的な用法の「全」をさらに2つに分けている。「全摘出」の「全」は、「全て、全部」という意を表し、後接する動詞的な成分に対して、「全て、全部」という量的な側面から連用修飾しているものもあれば、「全否定」の「全」は、「すっかり、完全に」という意を表し、質的な側面から「全」の後の要素を限定して連用修飾しているものもある。

それに対して、副詞的な用法の「総」は、「総選挙」「総動員」「総辞職」「総攻撃」「総点検」などのように、「すっかり、完全に」という意を表すと考えられにくい。「全」とは異なり、質的な面からの連用修飾という用法はない。副詞的な用法の「総」は、「全て、全部」という量的な側面から連用修飾しているものしかない。

## 7. おわりに

本稿は、字音接頭辞「全」と「総」を考察対象とし、両者の意味用法を検討したうえで、類似点と相違点についていくつか指摘した。

「全」の意味用法を大きく「全ての～」「～全体」「全てが～」副詞的な用法」の4つに分類する。「～全体」はさらに2つに分ける。1つは、後接語が「(空間的・時間的)範囲」を表すものであり、もう1つは、後接語が「数量・比率」を表すもの、あるいは、

「数量・比率」を表す文脈であるものである。また、副詞的な用法もさらに量的側面からの連用修飾と質的側面からの連用修飾という2つに分類する。

「総」の意味用法を「～全体」「全ての～」「全てが～」「全ておさめる、とりしまる」「副詞的な用法」の5つに分類する。また「全」と「総」の基本的意味を「全て」とし、後接語によって、パラフレーズして「全ての～」「全てが～」などといった意を表すことになる。

「全」と「総」の意味用法における共通点と相違点については、表10を参照されたい。

表10 「全」と「総」の比較

		「全」	「総」
ア.	「全ての～」	◎	△
イ.	「～全体」	「範囲」を表すタイプ	◎
ウ.		「数量・比率」を表すタイプ	△
エ.	「全てが～」	△	○
オ.	「全ておさめる、とりしまる」	×	◎
カ.	副詞的な用法	○	○

今後の課題として、「全」と「総」の通時的研究、および日中対照研究が考えられる。現段階ではまだ考察の準備が整っておらず、また稿を改めて論じる。

## 注

- 1) この定義の詳細および字音接辞に当たるものはどのようなものがあるのかについては、山下（2018）、張（2018）を参照されたい。
- 2) 「全3冊」のように、直後に数量表現が来る場合は、本稿では考察対象から外すが、語構成要素の接辞とするか、単独な文構成要素とするか、まだ議論する余地があり、また稿を改めて論じることにする。「全」以外に、「約一キロ」の「約」、「満三才」の「満」、「築五年」の「築」などがある。
- 3) 林（2010）は「造語成分」を考察対象とするため、「全納」「全開」のような二字漢語も考察対象に入っている。本稿は前述したように、「字音接頭辞」を考察対象とするため、「字音接頭辞」の定義にしたがい、二字漢語を考察対象から外す。
- 4) 村木（2012: 130）によると、「ある種の名詞が規定成分となると、形容詞のような特徴を発揮することがある。規定成分となる名詞は一般に関係規定をするが、例文(15)～(17)（引用者注：次の(ア)～(ウ)）では先行する名詞は後接する名詞に対して属性規定をしている」。

(ア) 弾より速い鉄鋼の男の大活躍は、CGにうってつけ。

(村木 2012 : 131)

(イ) 無所属新人の〇〇〇〇氏(46)は宮崎市周辺を選挙カーで回り「がけっぶちの戦い」と支持を訴えた。(同上)

(ウ) 演奏家も大層な熟演で「朝飯前の仕事かな」と思っていたら大違いだった(笑い)。(同上)

- 5) 一字漢語と結合し、二字漢語を形成する用例を省略する。
- 6) 「／」の左側は「サ変動詞」の例で、右側は「名詞」の例である。
- 7) 括弧内の数字は出現頻度を意味する。「財産(117:14)」のように、「:」の左側の117は、「全」の用例数であり、「:」の右側の14は「総」の用例数である。他も同様。

### 参考文献

- 曹佳樂 (2018) 「接辞性字音語基「全-」と「総-」について」『立教大学日本語研究』25. 立教大学日本語研究会
- 張明 (2018) 「字音接辞の分類」『学習院大学大学院日本語日本文学』14. 学習院大学大学院人文科学研究科日本語日本文学専攻
- 村木新次郎 (2012) 『日本語の品詞体系とその周辺』ひつじ書房
- 山下喜代 (2018) 「字音形態素のカテゴリー化—接辞を中心に—」『青山語文』48. 青山学院大学日本文学会
- 林慧君 (2010) 「造語成分としての外来語と漢語の対照分析—「オール」と「全」を例に一」『台大日本語文研究』20. 国立台湾大学日本文学系

### 使用したコーパス

『現代日本語書き言葉均衡コーパス(通常版)』([https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/bccwj/](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/)) 国立国語研究所

(ちょう・めい 2018年度博士後期課程修了)